

北海道大学交流デー（ウメオ大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、欧州ヘルシンキオフィスの中心となり2月28日（水）・3月1日（木）にウメオ大学において北海道大学交流デーを開催しました。

ウメオ大学は、スウェーデンのヴェステルボッテン県のウメオ市にあり、1965年に設立された学生約31,000人、教職員約4,300人が在籍する総合大学です。本学とは、2013年8月に大学間交流協定を締結しています。

初日には、ウメオ大学からはハンス・アドルフソン副学長の他、教職員、研究者等約20名と、本学からは長谷川晃理事・副学長をはじめ、各研究科等から合わせて18名が出席し、在スウェーデン日本国大使館の鈴木 顕書記官、エドヴァルド・フリートウッド 瑞日基金事務局長、吉原誉夫JSPSストックホルム研究連絡センター副所長にもご出席いただきました。

開会式では、まずウメオ大学アドルフソン副学長、本学の長谷川理事・副学長から挨拶と各大学の概要説明があった後、鈴木書記官、フリートウッド事務局長、吉原副所長からそれぞれ祝辞をいただきました。

開会式の後には、本学のアイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授とウメオ大学サーミ研究センターのクリスティーナ・セリーン・マクネイル博士

から、それぞれの大学の先住民研究について、また、本学北極域研究センターの大塚夏彦教授、ウメオ大学北極域研究センターのガブリエラ・ノルディン博士から、それぞれの大学の北極域研究について紹介があったほか、両大学の研究支援や、スウェーデンと日本の高等教育機関が連携して実施するMIRAIプロジェクトの活動概要の紹介が行われました。

二日目には、全体会において、両大学の参加者がそれぞれの研究内容を発表したあと、「北極域における国際政治・経済活動」「先住民研究」「北極域

におけるサステナビリティと生物多様性」の3つのグループに分かれ、研究内容に関する議論や今後の交流方法に関する具体的な打合せが行われました。

今後もヘルシンキオフィスでは、欧州諸国の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。

(国際部国際連携課)



ウメオ大学アドルフソン副学長による挨拶



長谷川理事・副学長による挨拶



加藤教授によるアイヌ・先住民研究センター紹介



2日目の研究者交流の様子